

# 志賀自然教育研究施設年報

平成14(2002)年2月～平成15(2003)年1月

## I 概 況

信州大学の全学共同の組織である山岳科学総合研究所が立ち上がり、いくつかの研究プロジェクトが始まった。志賀施設はこのアンブレラ組織として位置づけられており、研究プロジェクトでは、井田施設主任を中心に山岳基礎科学部門に加わった。また、平成16年度からの大学独立行政法人化に伴う中期目標・中期計画が立案された。

一方、施設本館では老朽化した水道管の敷設取り替え工事がなされた。カヤノ平ブナ原生林教育園では、入り口看板の支柱の取り替えが行われた。また、同園では、テレビによる放送公開講座（信越放送）で施設主任がブナ林の生態について解説をした（平成15年1月18日放映）。

## II 運 営 委 員 会

### 1. 第一回運営委員会：平成14年5月29日（水）（教育学部第一会議室）

(1)平成13年度事業報告、(2)平成13年度決算報告、(3)平成14年度事業計画案、(4)平成14年度当初予算案及び(5)その他、についてそれぞれ審議した。

まず、施設主任より平成13年度事業について報告があり、施設長が補足説明を行った。特に、昨年度決まった改組計画の進行状況について、施設長と古平事務長によって説明がなされ、現在は信州大学山岳科学総合研究所のアンブレラ組織として位置づけられる方向へ進んでいることが示された。続いて、経理係大月主任から同年度決算報告があり、質疑応答の後、両案件とも原案通りそれぞれ承認された。

平成14年度事業計画案について、施設主任から説明があり、大月主任より予算案の説明があった。続いて施設長より、平成14年度の学部予算全体がまだ不透明な時期だが、施設の運営には例年通りの学部からの予算補助が欠かせないので、その旨総務・予算委員長に依頼書を出したこと、また、大学全体の予算が確定していないので不確定な部分もあるが、日常業務に支障が出ないようにするため、予算案の審議をしてほしい旨説明があった。また、今年度は山岳科学総合研究所の研究プロジェクトの一翼を担う方向で参加する方針であることが報告された後、両案件ともに承認された。

その他に、古平事務長より、志賀施設の現状を見てもらうために、運営委員会を志賀施設で行う必要があるのではないかと提案をいただいたので、第二回運営委員会を志賀施設で開催することにした。

### 2. 第二回運営委員会：平成14年10月16日（水）（志賀施設2階研修室）

(1)平成14年度の予算執行状況および事業の進捗状況、(2)施設の現況と将来について、(3)その他、についてそれぞれ審議した後、教育園内及びカヤノ平分園を視察した。

竹下経理係長より、平成14年度の予算配当額が、昨年度予算額の3.8%減で決定されたことやその経緯などについて説明があり、10月15日現在で、48.9%の予算執行率であることが報告された。こうした予算執行は、事業に伴ってなされたものなので、事業の進捗状況について施設主任から説明があった。さらに、事務長から予算に関する補足説明があり、第一回運営委員会で承認された案に沿って事業も予算も執行されていることを運営委員の方々に確認いただいた。続いて、学長裁量経費および学部長裁量経費の配分を受けたことにより、カヤノ平ブナ原生林教育園の入り口の看板支柱の建て替えが可能になり、現在その工事が進行中である事を施設長が報告した。加えて、事務長より看板の材料の入手方法等について補足説明がなされた。その他に、学部長裁量経費の配分を受け、志賀施設本館の老朽化した水道管の敷設取り替え工事が8月に行われたことも報告された。

平成16年度からの信州大学中期目標・中期計画案のうち志賀施設の現況と将来について関係した部分について施設長が説明した。質疑応答の後、この目標・計画についても原案通り承認された。また、今年度、「信州大学山岳科学総合研究所」が正式に発足し、志賀施設もそのアンブレラ組織として位置づけられたことについて

て、施設長が報告し、その研究プロジェクトに、施設主任が中心になって行う研究計画も採択されていることを紹介した。山岳科学総合研究所の組織がこれからどのように整備されていくかはまだ不明の点も多いが、志賀施設が学部附属の施設としてこれからも存続していくことは極めて厳しい状況下にある。このため、志賀施設が将来的には信州大学の学内共同利用施設ないしは大学附置の研究所へと改組されるよう、概算要求等を通して、これからも大学本部へはたらきかけて行くことが承認された。

その他、事務長より、職員宿舎と日かげ湿原にある気象観測塔・観測小屋を独立行政法人化前に取り壊しをしてもらえるよう本部に依頼していること、それに関連して10月9日に大学本部から経理部長と主計課長が現地視察に訪れたことが報告された。また、志賀施設への理解を深めてもらうための広報活動の一つとして、今年度の自然教育合宿研修についての記事を信大学報と文教ニュースへ投稿し、掲載されたことが報告された。会議終了後、施設長と施設主任の案内で、施設周辺とカヤノ平ブナ原生林教育園内の現地視察を行った。

〔運営委員〕任期：平成15年3月まで。以下、いずれも敬称略。

〔言語〕高橋 渉，〔社会科学〕鶴飼照喜，〔理数科学〕鈴木次雄，〔生活科学〕松岡英子，〔芸術〕大城康宏，〔スポーツ科学〕渡辺隆一，〔教育科学〕野口宗雄，〔教育実践センター〕今田里佳，〔施設長〕別府 桂

〔事務局〕古平事務長，野村同補佐，竹下経理係長，東條用度係長（9月30日まで），中村用度係長（10月1日より），山本専門職員，下原管理係長，宮下学務係長，大月経理係員

〔施設職員〕（施設主任）井田秀行，（技官）春日基文

### III 研究と教育活動

#### 1. 志賀実習

教育学部2年生全員が対象となる必修授業「自然教育」と教員養成課程合宿研修の合体した志賀実習を10班施設で受け入れ、井田及び別府の2人分担任で行った。日程は以下のとおり。

自然教育（単位認定総数262名）＋教員養成課程合宿研修

第1班：8月5日(月)～7日(水)	第2班：8月7日(水)～9日(金)
第3班：8月19日(月)～21日(水)	第4班：8月21日(水)～23日(金)
第5班：8月26日(月)～28日(水)	第6班：8月28日(水)～30日(金)
第7班：9月2日(月)～4日(水)	第8班：9月4日(水)～6日(金)
第9班：9月9日(月)～11日(水)	第10班：9月11日(水)～12日(木)

（第10班の養護学校教員養成課程（21名）は自然教育が必修でないため、合宿研修のみの1泊2日）

#### 2. 大学院教育学研究科授業

「生物学特論Ⅰ」前期2単位，「生物学演習Ⅰ」前・後期各2単位で開講（別府 桂助教授）。

「生物学特論Ⅳ」前期2単位，「生物学演習Ⅳ」前・後期各2単位で開講（井田秀行助教授）。

「生物学演習Ⅴ」前期2単位で開講（渡辺隆一教授）。

#### 3. 大学公開講座

講座名「郷土の自然を探る」

実施内容 第1日 6月23日(日) 信大志賀自然教育園内の自然観察（別府 桂助教授）

第2日 7月7日(日) カヤノ平ブナ林の自然観察（井田秀行助教授）

第3日 10月20日(日) 長野市街地の自然観察（赤羽貞幸教授）

参加者 一般社会人21名。

#### 4. 出版

研究業績39号（450部印刷）を3月に、自然便り「長池の四季」（400部印刷）を4回（3，7，8，12月）発行した。

#### 5. 大学関係の授業・実習（於：志賀施設ないしカヤノ平分園）

平成14年

2月18～20日 埼玉大学教育学部・雪結晶の観察

2月18～20日 信州大学教育学部・地学臨地演習

- 5月25日・7月20日 信州大学大学院教育学研究科生物学特論Ⅰ・生物学演習Ⅰ  
 7月24～26日 上越教育大学・生物学野外実習  
 7月28～29日 信州大学大学院教育学研究科生物学特論Ⅴ  
 8月1～4日 信州大学教育学部スポーツ実習（トレッキング）  
 8月9～11日 信州大学教育学部スポーツ実習Ⅱ（トレッキングⅡ）  
 9月24～26日 信州大学理学部物質循環学科・野外調査実習Ⅰ

6. 研修会・観察会支援活動 \*別府施設長担当分、( )内は実施場所。

平成14年

- 3月16日 やまぼうし自然学校「森林インストラクター養成講座」講師（サンワーク上田）  
 4月16日 北志賀高原観光協会「三ヶ月池アワラ湿原植生調査報告」講演（よませ活性化センター）  
 4月21日 飯山市五東活性化委員会「カタクリ観察勉強会」講師（飯山市五東神社カタクリの道）  
 4月29日 環境省「自然にふれあうみどりの日の集い」講師（志賀自然教育園）  
 5月25日 飯山市立戸狩小学校職員研修会（ブナ林の自然観察）講師（飯山市鍋倉山）  
 6月4日 埼玉県所沢市立向陽中学校林間学校講師（木戸池温泉ホテル）  
 6月22日 筑北ぶなの木会里山学習会講師（麻績村公民館）  
 7月2日 \*高校理科実習助手の現地実習講師（カヤノ平分園）  
 7月5日 \*下高井地区新採用者教員研修講師（カヤノ平分園）  
 7月9日 須坂看護学校林間学校講師（志賀自然教育園）  
 7月22日 埼玉県北本市立西小学校林間学校講師（志賀高原自然保護センター）  
 7月25日 調布中学校（東京都）林間学校講師（志賀自然教育園）  
 8月27日 「湯の丸レンゲツツジ群落」保護増殖事業モニタリング調査（群馬県吾妻郡嬭恋村）  
 8月31日 やまぼうし自然学校「森林インストラクター養成講座」講師（志賀自然教育園・カヤノ平分園）  
 9月30日 聖山ぶなの樹音楽祭実行委員会「ブナの木学習会」講師（大岡村アルプス展望台）  
 12月20日 京都 YMCA スキーインストラクター研修講師（木戸池温泉ホテル）

平成15年

- 1月18日 信州大学放送公開講座『自然の恵みを守る～水と緑の世紀へ』第2回「いのちの源流，ブナ林の息吹」講師（信越放送で放映）

#### Ⅳ 園内整備

例年通り、志賀自然教育園内及びカヤノ平分園内の自然観察路の落ち葉掃除、側溝整備、笹刈り、階段整備を5月から10月まで行った。同時にロックガーデンの植物への名札つけなどの作業も随時行った。

カヤノ平の入り口看板が老朽化のため11月に建て替えられた。なお、看板の支柱には、農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センターから伐り出されたヒノキ材を用いた。なお、遊歩道沿いの解説板については今年度予算での執行が決まっているが取り替え工事は融雪後の平成15年5月以降に実施予定である。

## V 平成13年度の志賀施設の利用状況

## (1) 資料館入館者の集計表（記帳者のみ）

表1 来館団体の種類

	県 外				県 内				計			
	団体数		人 数		団体数		人 数		団体数		人 数	
小 学 校	16	21.6%	918	30.8%		0.0%		0.0%	16	20.3%	918	29.5%
中 学 校	10	13.5%	961	32.3%	4	80.0%	71	52.2%	14	17.7%	1,032	33.2%
高等 学 校	6	8.1%	159	5.3%		0.0%		0.0%	6	7.6%	159	5.1%
専 門 学 校	1	1.4%	35	1.2%	1	20.0%	65	47.8%	2	2.5%	100	3.2%
大 学	4	5.4%	278	9.3%		0.0%		0.0%	4	5.1%	278	8.9%
一 般	37	50.0%	625	21.0%		0.0%		0.0%	37	46.8%	625	20.1%
計	74	100.0%	2,976	100.0%	5	100.0%	136	100.0%	79	100.0%	3,112	100.0%

表2 団体の県内外の比率

団体の種類	小 学 校	中 学 校	高等 学 校	大 学	一 般
県 内	0%	29%	0%	50%	0%
県 外	100%	71%	100%	50%	100%

表3 月別参観者数

月	個 人		団 体				計	
	人 数	比率	団 体 数	人 数	比率	人 数	比率	
5	69	3.8%	1	206	6.6%	275	5.6%	
6	109	5.9%	4	301	9.7%	410	8.3%	
7	431	23.5%	47	1,907	61.3%	2,338	47.3%	
8	917	50.1%	19	385	12.4%	1,302	26.3%	
9	120	6.6%	3	273	8.8%	393	7.9%	
10	186	10.2%	5	40	1.3%	226	4.6%	
11	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	
計	1,832	100.0%	79	3,112	100.0%	4,944	100.0%	

## (2) 志賀施設月別宿泊利用人数

区 分	年・月	13年										14年			計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
利 用 人 数	学 内	0	0	5	8	2	37	0	0	0	0	8	0	60	
	合宿研修等	0	0	0	0	184	119	0	0	0	0	0	0	303	
	学 外	0	4	0	25	0	0	0	0	0	7	15	0	51	
	計	0	4	5	33	186	156	0	0	0	7	23	0	(493) 414	
宿 泊 延 人 数	学 内	0	0	5	8	2	74	0	0	0	0	16	0	105	
	合宿研修等	0	0	0	0	357	209	0	0	0	0	0	0	566	
	学 外	0	5	0	50	0	0	0	0	0	14	30	0	99	
	計	0	5	5	58	359	283	0	0	0	14	46	0	(877) 770	

( )内は平成12年度の数